

「18歳を市民に」

高生研

第57回全国大会
2019夏 in 名古屋



会期・会場
2019年8月3日(土)～5日(月)
大同大学大同高等学校(大同高校)

大会テーマ

学校の寛容性を「耕す」

日程

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
3日 (土)			受付 10:30～	入門講座 11:00～12:15		全体会 13:00～17:00			休憩 17:00～ 18:00	交流会 18:00～20:00			
4日 (日)		受付	一般分科会 9:00～12:30	昼食 12:30～ 13:30		一般分科会 13:30～17:00			休憩 17:00～ 18:00	総会 18:00～20:00			
5日 (月)		受付	問題別分科会 9:00～12:00		別れの 集い 12:15～ 13:00								

入門講座 8月3日(土) 11:00～12:15

「問題行動」を起こす生徒を真ん中においたHRづくり

—トラブルをHRづくりのチャンスに—

HR担任にとって「問題行動を起こす生徒」はやっかいな存在だ。でも、ここで「またか・・・」と思わず、トラブルをチャンスととらえてHRづくりが出来たら・・・。今年の基調発題の実践から「HRづくりのポイント」を考えてみましょう。

全体会 (開会行事 基調発題 13:00～17:00)

基調発題

教師の「傷つき」を意識することから、学校の寛容性を「耕す」

小柴架奈子(茨城)

「トラブル」を起こす生徒の本当の声を聴こうと試みる教師は、ときに、当の生徒や生徒たち、教員集団からの不寛容な目にさらされて傷つく。本基調では、教師の傷つきを出発点に、どうしたらHRや学校の中で、悩みを生徒や職員に相談したり助けてもらう関係をつくれるのか、どのような話し合いが学校の寛容性を耕すのかを探ります。

主催：全国高校生活指導研究協議会

後援：名古屋市教育委員会

□一般分科会 8月4日(日)

A 午前 9:00~12:30

1 HR 文化祭におけるベンチ製作

西尾健佑(大阪)

学校の中に「教員と生徒が横並びで話せる場所がない」と思い、文化祭の企画の中でベンチを作り、そのベンチを校内に設置することにした。ベンチという大きなものを作ったことのない生徒は少しずつ物を作り出すことに喜びを感じていく。ベンチづくりを通じたクラスについて振り返る。

2 学年 「初学年主任の試み」—弱音の吐ける学年—

渡部翔子(公立高校)

ソフトな管理が張り巡らされた学校で、担任団7人中、4人が前年度採用の初担任という学年の(初学年主任としての)実践。攻撃性の高い母親の怒鳴り込みで発覚した、発達障害を疑われるK子による「イジメ」にどう向き合ったか。

3 授業 しあわせといのちの授業

宮田拓(岡山)

流行歌の歌詞をトリガーとして、「しあわせについて本気出して考えてみた」授業と、終末医療について、現役医師や大人を交えて高校生と考えた授業についての報告。2つの実践で目指したのは、生徒が鼻血を出して喜ぶような【=生活の中で想起する】授業である。

4 授業 学びの問いはどこから

古川優子(東京)

教室で一つの作品を読む時に、生徒一人ひとりが読みたい所や感じる事が違うという前提で、生徒一人ひとりが主体的に「読む」ということ、また、異なった価値観を出し合いながら「対話」とはどのようなことだろうか。柚月麻子「フォーゲットミー、ノットブルー」の授業実践を報告する。

B 午後 13:30~17:00

5 HR 文化祭を通して「対話」のできるクラスに

岸本光世

文化祭のクラスミュージカルは「ノートルダムの鐘」に決定した。企画の中心となるのは、圧倒的少数派かつ弱者の男子2人。クラス全体を見渡しつつ、このリーダーたちをいかに支え、浮いた存在にさせないかというのが、私のミッションとなった。3ヶ月の間におこる生徒たちの変容の物語。

6 HR B太と歩んだ3年間

坂杉隆通(静岡)

こだわりが強く、コミュニケーションをとるのが苦手なB太。生きづらさを抱えたB太を担任し、彼を理解することに努めながらHRで周りの生徒とのつながりをつくろうと意識した。数々の失敗や衝突を重ね、多くのことを学びながら、B太と歩んだ3年間で報告する。

7 授業 「主体的・対話的で深い学び」とは何なのか?

— 一斉授業と「参加型」授業を越える試み —

西村太志・藤本幹人(滋賀)

主権者教育の充実が求められ、現実の論争問題を扱う授業が必要であると考えられるが、現場では講義式一斉授業が主流を占め、また”形だけ”の生徒参加型授業になりがちである。そこから一歩を踏み出すための授業モデルを開発・実施・分析した。

8 総合学習 生徒の成長や学びが学校を変えた

澄田しおり

名ばかりの総合的な学習の時間に疑問を持った私は、本校を入学して卒業していく生徒に3年間かけてどんな力をつけさせたいのかという「3カ年計画」を作成した。閉鎖的な伝統校で実践した総学3年間で振り返る。

9 生徒会 市民性を育む生徒会選挙のとりくみ

酒田孝(青森)

選挙管理委員会の顧問として生徒会の選挙に関わってきた実践報告。生徒会選挙は生徒が民主主義を体験し、当事者性を獲得する絶好の機会なのに、それが十分に生かされていない。「本物そっくりの選挙」をキーワードに、民主主義を知識ではなく体験を通して学んでいきたい。

□問題別分科会 8月5日(月)9:00~12:00

1 新学習指導要領と探究学習とどう関わるか 一生徒のための探究とは—

発表 高橋亜希子(南山大学) ゲスト 林尚子(東京)

「理数探究」など「探究」がつく複数の科目が、指導要領改訂により導入される。しかし、高大接続改革と連動して、「探究」が本来の生徒主体の学習から離れていく可能性もある。指導要領や大学入学共通テスト、実践事例などの検討を基に、探究学習の課題と可能性について話し合う。

2 「生徒指導」を取り戻す —高生研・少年刑務所の実践から探る処罰主義克服への前途—

絹村俊明(中央大学)

処罰主義的な生徒指導が席捲する教育現場。懲戒が、生徒の「問題行動」の改善よりも学校からの排除につながるケースも。生徒指導の本来の目的が「生徒の成長を促すこと」であるなら、今、私たちは懲戒(処罰)にどう向き合うべきなのか、高生研と少年刑務所における実践から探る。

3 生活指導をコミュニケーションと関係性の視点から捉え直す

内田理(埼玉/大学非常勤講師) ゲスト 小柴架奈子(茨城)

そもそも生活指導とは何か? 生活指導の視点がなければ、生徒指導はただの支配にしかなりえないのではないか。教師-生徒間の、生徒同士のコミュニケーションと関係性の視点から生活指導実践を見ることで、実践課題を明確にする議論をしたい。

4 生徒とのかかわりをどうつくってきたか —若いあなたが教師であり続けるために—

井沼淳一郎(大阪)

教員生活37年を振り返るとき、日本の高校教育が1990年を境に構造転換してきたことを実感する。私の生活指導実践は時代の何とどう格闘してきたか。私と生徒との関係性を軸に実践を検証しつつ、「次の30年」を生きる若い先生たちに伝えることは何かを考える。

5 「ケアと自治」を実践的に読み解く 小林実践を中心に

提起 森俊二(成城大学)・小林孝臣(東京)

未だにケアという用語は意味内容として確定したものとはいえない。そこでここではケアとは具体的にどんな実践の内実があるのか、そして「ケアと自治」に関わる実践の視角、ケアと自治がつながる実践の課題を、小林実践を中心に議論したい。

□交流会 8月3日(土)18:00~

○基調を読む

○学校へ行きづらいと感じている子どもたち(現地主催)

不登校、さらには不登校には至らないまでも学校に行きづらいと感じている子ども(小中高)が増えているのではないか。かつて当事者であった大学生の語りや現場で見られる様々な事例を出し合い、意見交流する。

交流会は、参加者が自らの興味関心によりつくるものです。現時点で、上記の2つが確定しています。今後、企画申し込みを受け付けます。(6月末×切) ご注目下さい!

参加案内

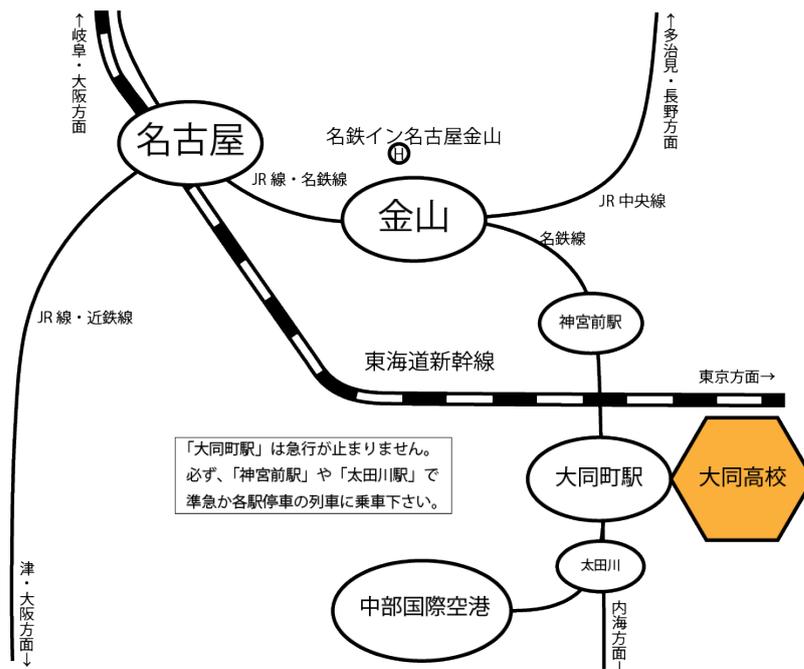
- 参加費** 全日程参加 5,000円 2日参加 4,000円 1日参加 2,000円
学生 1,000円 (ただし、大会実行委員として参加した場合は無料)
- 昼食** 8月4日(日)の弁当(520円(茶込み))の申込を受け付けます。
大会参加申込フォームから、7月20日(厳守)までに申し込んで下さい。
- 申込方法** 「高生研2019名古屋大会応援ブローガー18歳を市民に」の大会参加申込フォームにて
申し込んでください。 <http://kouseiken.jp/Taikai/>からアクセスできます。
- 保育** 保育を希望する方は6月30日までに参加申込みフォームに入力して下さい。
3歳以上で受け付けます。その際は必ず年齢、性別の入力をお願いします。
料金は半日で1,000円です。
対象の時間帯は3日(土)午後、4日(日)午前と午後、5日(月)午前
(3日間通して4,000円)となります。
- 宿泊** 宿泊は各自でお取り下さい。
大会実行委員会で「名鉄イン名古屋金山」を30部屋、仮押さえしています。
このホテルに宿泊を希望される方は、直接電話で「高生研大会で宿泊」と申込みを行
って下さい。予約が満たない場合でも6月30日以降は仮押さえを解除します。
◎ホテル「名鉄イン名古屋金山」(朝食付き) Tel.052-324-3434
合計30室(禁煙25室、喫煙5室) 3日(土)9700円/泊、4日(日)7500円/泊

大同大学大同高等学校アクセス

※駐車場はありません。車でおこしの場合は近隣の有料駐車場をお使い下さい。

〒457-0811 名古屋市南区大同町2丁目21番地

名鉄常滑線・河和線 大同町駅から徒歩1分!



<高生研の案内・問い合わせはこちら>

○高生研の紹介・大会案内を掲載

「高生研2019名古屋大会応援ブローガー18歳を市民に」

<http://kouseiken.jp/Taikai/>

問い合わせ先 安藤誠也 (高生研大会グループチーフ)

e-mail: a-seiya@cty-net.ne.jp

